

<p>団体名</p>	<p>豊橋まちなか公共空間活用学生実行委員会</p>
<p>説明文</p>	<p>1. 事業内容</p> <p>豊橋技術科学大学で建築を学ぶ学生と愛知大学の学生の有志により実施している活動です。豊橋のまちなかの広場や幅の広い歩道などの公共空間の柔軟な活用を支援するため、ストリートファニチャー（SF）のデザインから作製、それらを活用した公共空間のデザインと実践を行っています。まちなか活性化に取り組むエリアマネジメント組織“豊橋まちなか会議”と連携し、公共空間のデザインと実践について幅を広げ、活動を加速させています。</p> <p>2. 成果</p> <p>事業の成果により、まちなかで活用可能な SF の台数を増やすことができました。作成した SF を用いた空間デザインにより、小さなにぎわい創出の一助となりました。また、まちなかの公共空間の活用可能性を示すことができました。間接的な効果として、まちなかとの関わりの薄い学生が、まちなかとのつながりを持ち、訪ねる機会を創出しました。地域の木材の活用にも貢献しました。具体的な活動は以下の通りです。</p> <p>① SF の作成</p> <p>本活動の中核となる、地域の木材を活用した SF を作成しました（テーブル 1 台、台形イス 2 台、布椅子 3 台）。（写真 1）</p>  <p>写真 1 台形イス</p> <p>② 作成した SF を用いた公共空間活用</p> <p>a) まちなかイベントでの活用</p> <p>10/13（11 時～15 時）に実施された市主催の「まちなかピクニック」の休憩スペースを、作成した SF を用いて空間デザインと設置を行いました。（写真 2）</p>  <p>写真 2 まちなかピクニックでの SF の利用のされ方の様子</p>

b) 日常的な活用の試み

まちなかをもっと柔軟に心地よく過ごす活動を実施している他の団体の活動へ、作成した SF が利用されました。また、1年を通して、水上ビルの新規店舗前（幅の広い歩道）にイスの設置を試みました。



写真 3 豊橋駅南口広場での日常的利用の様子

③ 新城市のふるさと納税品

昨年度の活動で作成したテーブルですが、今年度の活動の効果もあり、新城市のふるさと納税の返礼品の1つに採用されました。

(<https://www.furusato-tax.jp/product/detail/23221/4678256>)

これは、東三河地域としてのにぎわい創出の一助となっています。

3. 今後の見通し

a) 活動の継続の重要性

今後も、今年度と同様の活動を継続します。もう少し頻度を上げて SF を活用した空間デザインと実施を重ねる必要があると考えます。特に日常的な活用が必要だと考えています。そのためにも、どこでどのように活用できるのか整理し、活用に適した主体と連携することが考えられます。

b) with コロナの公共空間活用

国土交通省から、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等を支援する緊急措置として、地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む沿道飲食店等の路上利用の占有許可基準を緩和すると発表され、これを受け、豊橋市においても許可基準の緩和が発表されました。

このような社会の動向を鑑み、豊橋市内の条件に該当する飲食店等を支援するための屋台及び椅子・テーブルの作成・利用・販売を行います。